

東亜燃料工業
情報システム室 小田部 斉

学際的情報交換の場としてのOR学会 世にいろいろの学会があるが、当OR学会ほどに研究対象の自由な学会はないと思う。したがって、会員の構成も、その出身学科といい、所属企業体といい、多種多様であって、これほどに学際的な大集団は珍しいし、また、これがOR学会の最大の特徴であるといえよう。

ところが、近頃、当学会員の声に、学会から受ける実利的メリットが少ないという意見が多いと聞くが、どうも、これはあまりにも近視眼的、消極的発想から出ていると思う。むしろこの際発想の転換をして、積極的に学会活動に参加し、学際的な他分野の人々との交流を通じて視野を広げ、不確実性時代の変化を先取りする感覚を養う場として、学会を大いに活用したらよいのではないか。

さて、そのような場として、まず学会員相互によるインフォーマルなサークルを地域的に結成することをおすすめしたい。たとえば、学会の長老によってはじめられ、現在、私も世話人の末席を汚している「丸の内ORクラブ」は、この5月で104回を迎えた。地味だが、長

い年月、幅広いテーマをとらえて、価値ある本音の情報を交換してきたことは、レギュラーの面々にとっては、相互に裨益するところ、誠に大きかったと先日の例会でも述懐し合ったのである。クラブづくりの有志にはノウハウをお伝えしたい。

電通公社
経営調査室 江副 力

仕事に関連して、日本人が国内でどのように移動しているかに関心をもっていますが、移動にもなって現在進みつつある一つの現象に気がきました。

それは、人口の上位35都市(全人口の4割弱を占める)間での平均的な人口格差が、過去10年間にわたって滑らかに減少していることです。

すなわち、35都市を人口 S の大きさ順(R であらわす)に並べれば、 $\log R$ と $\log S$ との関係はほぼ直線になることはすでに知られておりますが、実はこの直線の傾斜が過去10年間にわたって、毎年1%弱ずつ滑らかに減少しているのです。

ところで現在の日本は、人の考え方や行動の均一化の速度が極端に上昇している時代ともいえるのではないのでしょうか。

新フェローの紹介

フェロー会議より理事会へ新フェローとして朝尾正氏が推薦され、
4月5日の理事会で承認されましたのでご紹介します。

朝尾 正 (あさお まさし) 氏

大正11年1月7日生
現住所 大阪府堺市若松台
3-30-1

学歴

昭和19年 東京大学医学部薬
学科卒業

職歴

昭和19年 山辺製薬株式会社入社(研究部)
昭和29年 同社生産部品質管理課長
昭和34年 // 生産管理部長
昭和40年 // 経営計算センター副室長



昭和46年 // 解析計算室長
昭和51年 // 経営計算室長
昭和45年より 大阪府立大学工学部(非常勤)講師
昭和50年より 関西大学工学部(非常勤)講師
共編著
シミュレーション入門、品質管理ハンドブック
最新実験計画法、他
OR学会役員
理 事 昭和33, 34, 41, 42年
副 会 長 昭和50, 51年
評 議 員 昭和32年より現在まで
編集委員 昭和32年より44年まで